

道南の近未来ビジョンを考えるフォーラム

これからの50年を見据えて！

渡島・檜山地域は、豊かな農林水産・観光資源を有し、2015年度の新幹線開業をきっかけに北海道を牽引する地域として期待されています。

そのために今、道南の50年先を見据えた近未来ビジョンを議論するとともに、北海道・道南はどのような役割を果たしていけるのかについて、市民レベルで議論する場として、去る5月12日に函館国際ホテルにて「道南の近未来ビジョンを考えるフォーラム」が函館商工会議所の主催で開催され、道南内外から約700人の方々が参加しました。



基調講演

日本における北海道及び道南の新たな役割



小林 好宏 氏
北海道大学名誉教授、
財北海道開発協会開発調査
総合研究所所長

北海道が日本の中で脚光を浴びた時期がこれまで2度ありました。幕末から明治にかけてと、第二次世界大戦直後。どちらも世界的に大きな変化があった時です。幕末期は開国を迫られる中、北方からロシアが南下し脅威となっていました。終戦直後も食料不足が深刻でした。

日本が困難な状況に置かれた時、北海道が注目されました。豊かな資源を活用し、食糧増産、居住と働く場の提供、資源供給という国の3つの課題に答えてきたからです。そして今、北海道が三たび注目される時が来たと思います。

21世紀の特徴は二つ挙げられます。一つ目は、日本は今後何を指すべきか目標が見えていないことです。19～20世紀、先進国は工業化を目指し発展しました。日本は「欧米社会に追い付け、追い越せ」が目標でしたが、今後指すべき具体的な姿が明確ではありません。

二つ目は、環境問題と結び付いて、食料、エネルギーの自給率の低さが日本の弱点になっていることです。キーワードの「環境の維持」「自然との共生」「持続的成長」は、北海道のイメージと合致します。

このような状況において、北海道が果たすべき役割は何でしょうか。自らが次代のモデルとなり、日本の弱点を補うことです。北海道は各地域とも優れた資源があります。それを生かすことが北海道の課題です。

道南はどうでしょうか。イメージは観光と水産です

が、製造業、建設業の割合は全道平均に比べて高い。水産ばかりではありません。

世界的な視点で、道南の位置は極めて重要です。地球儀を上から見れば、米国と中国の2大市場の真ん中です。米国西海岸からアジアへは、津軽海峡を通過して日本海に出るのが最短ルートです。150年前、欧米の国がなぜ、東アジアの外れの日本の、さらに北の外れの道南に注目したのでしょうか。海上交通の重要な位置にあると再認識する必要があります。

いつも言われる問題に、人口の減少があります。しかし、戦後、一方的に増えているのは首都圏だけです。道内では道央圏以外は転出超過ですが、道南は根釧ほど転出超過ではありません。人口減は特別なことではないのです。

もう一つ重要なのは観光ですが、これだけの歴史的資源があるのに実力を発揮していません。函館は、70年代の英国の教科書の世界地図に、主要都市として載っていたほどの都市なのです。なぜ観光客数が落ちているのでしょうか。それは、ブランド力が形成されていないことが原因の一つではないのでしょうか。全国アンケートで、ブランド力の全国1位は夕張メロンです。北海道で次に入ってくるのは鵜川のシシャモ。函館のものは出てきません。

また、失敗のリスクを避けるため、観光資源は1つでは不十分です。成功例は札幌の雪まつりでしょう。雪像は吹雪になると全然見えませんが、台湾や韓国の人は定山溪などに宿泊し温泉で喜んでいきます。このように、複数の組み合わせを考えなければ成功しません。

函館だけではなく、江差、松前、大沼等、道南全域をどう結び付けるかが重要です。そのためのインフラ整備は遅れています。インフラ整備を進めるためには今の北海道開発体制が必要です。道南全域で広域的産業が実現すれば、新幹線の開業効果は大きくなります。

基調発表

道南の近未来ビジョンと戦略 PART 1

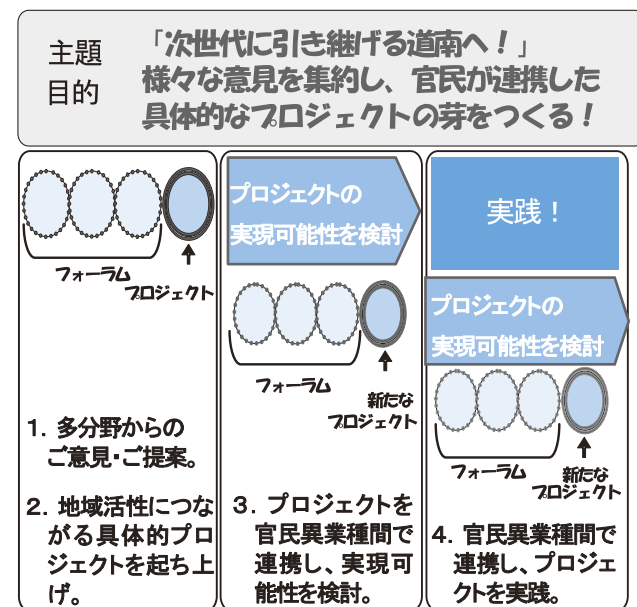
道南の近未来ビジョンと戦略を考える 異業種フォーラム事務局

2015年度の北海道新幹線開業は、道南ばかりではなく、北海道にとって起死回生の絶好のチャンスです。

昨年、「新たな北海道総合開発計画（国）」「新北海道総合計画『ほっかいどう未来創造プラン』（道）」が策定され、北海道の新たな10年がスタートしました。

これら計画の具体化も含め、新幹線が開業するこの道南の地から、北海道を牽引するビジョンと戦略を考え発信するため、道南内外の方からアイデアをいただきつつ、戦略的にくみ上げる場として、昨年11月から函館開発建設部が主催で「道南の近未来ビジョンと戦略を考える異業種フォーラム」を実施しました。そして、道南の50年後を見据えたビジョンや取り組みを地域の皆様と一緒に考えてきました。

これまで全6回、計18名から、道南地域の活性化に対するご意見、ご提案をいただいています。引き続き、皆様からご意見・ご提案を頂き、官民異業種間が連携したプロジェクトを実践していきたいと考えています。



フォーラムの主旨、計画から実践の流れ

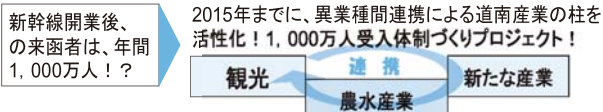
今回、当フォーラム事務局からは、現在、道南に訪れる観光客が約500万人、新幹線の年間輸送量を約500万人として、1,000万人が道南に訪れる可能性がある」と想定し、「ようこそ！1,000万人プロジェクト」を提案します。道南地域では新幹線開業を絶好のチャンスと捉え、それに向けた受け皿を構築することが重要です。

当フォーラムでは、引き続き、皆様からのご意見、ご提案を頂きつつ、取り組みの実践や新たなプロジェクトの創出を検討していきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

ご意見・ご提案	
観光	ニーズの多様化と異業種間連携 観光ホスピタリティ向上・観光教育の実践 等々
活性化 施策	国際スポーツ大会の誘致 地元産業と連携した国際緊急災害支援基地化構想 等々
農水産業	水産業・水産加工業・農業と観光の連携 等々
インフラ 整備	新幹線新駅とコンサートホール構想 地域資源を活かす大吊り橋 等々

取りまとめ&提案

プロジェクト:「ようこそ！1,000万人プロジェクト」



ご意見・ご提案とプロジェクト提案

ご意見・ご提案を募集します！

- ご意見等の提出方法・・・電子メール、郵送のいずれか
- 電子メールの場合・・・tikishinkou-ha@hkd.mlit.go.jp
(テキスト形式をお願いします。添付ファイルでの応募はできません。)
- 郵送の場合・・・〒040-8501 函館市大川町1-27
函館開発建設部 地域振興対策室

- ご意見をお寄せいただく際、お願いしたい記載事項
- ① 件名「道南の近未来ビジョンと戦略への意見」
- ② 氏名(法人名)
- ③ 住所(所在地)
- ※プロジェクト実践のため、頂いたご意見・ご提案と氏名を公表することがあります。その他の目的に個人情報を利用することはありません。

- フォーラムの内容等の問い合わせは下記までお願いします-
- 異業種フォーラム事務局(函館開発建設部 道路課 道路調査官)
直通電話:0138-42-8093(平日:8:30~17:15)

パネルディスカッション

これからの50年のために私たちがすべきこと

北海道、道南の現状、北海道が果たしてきた役割

原田 北海道・道南の現状をどう見るでしょうか。

小林 道南は観光地で知られていますが、観光客数は道東を3ブロックに分けたうちのひとつと同じくらいにすぎません。函館には歴史的町並みや湯の川温泉がありますが、過去の遺産を大切にしつつ、新しいことにも挑戦してほしい。



パネラー
小林 好宏 氏

西尾 私が子供のころ、函館は観光都市ではなく、ウォーターフロント開発などで70~80年代に大きく変化しました。今、航空便の減少などで鉄道や海路を合わせても函館入りできるのは1日5,000人しかありません。それでも、東京や札幌にはない函館らしさを追求したいと考えます。



パネラー
林 美香子 氏
キャスター、慶応義塾大学大学院SDM研究科教授

林 函館は朝市が有名ですが、札幌の二条市場と同様に市民があまり足を運ばなくなりました。先日、札幌の狸小路に近郊の農畜産物の直売店と飲食店を併設した「HUG(ハグ)マート」というユニークな店ができました。朝市も、農商工連携に力を入れたいら良いのではないのでしょうか。

藤澤 産業ツーリズムや農業体験が盛んになるなど、見る観光から体験する観光に変わっています。どこでも観光地になり得る時代です。北海道観光振興機構では今年、食を中心として道南を集中的にPRしていきます。

小西 道南には全道一の生産額を誇る野菜が4つあります。長ネギ、ホウレンソウ、白カブ、ニラ。道南米「ふっくりんこ」は、



パネラー
小西 勝則 氏
新函館農業協同組合代表理事
副組合長

雑誌でブランド米として紹介されました。今後も地域行政と一体となり、基幹作物をつくっていきたくと考えます。

今後、北海道、道南が取り組むべきこと

原田 観光や農業の振興にも関連するインフラ整備の重要性についてはどうお考えですか。

小林 道南は松前や江差が点在しており、それらの観光地を結ぶ交通インフラ整備は絶対必要です。途中で途切れては効果がありません。

西尾 開発行政は終わったという議論が東京ではなされていますが、遅れているインフラ整備の予算やそれを推進する北海道開発体制が保障され、必要な整備が進むことが大事です。基礎的なインフラは国の仕事で、それを生かすのが地方の仕事です。



パネラー
西尾 正範 氏
函館市長

小西 新函館農協では北海道乳業を通じて乳製品の約8割をトラック輸送しています。道路に依存しているのに、大雨で通行止めになる幹線道路があるのが現状です。



パネラー
藤澤 義博 氏
(社)函館青年会議所理事長、
(社)北海道観光振興機構マネージャー

藤澤 人が動きやすい環境づくりが物流の可能性も広げます。シーニックバイウェイ北海道の取り組みや道路整備が、観光や生活を支えることを期待します。

原田 今後、取り組むべきことは何でしょう。

林 50年後は情勢も変わり、どんな社会になるのかわかりません。だからこそ道南をこうしたいと強く意志を持つべきです。北海道が頑張っていく方向は、豊かな自然、農地、癒しの空間が広がる環境を守っていくことだと思います。



小西 地元の農産物を理解してもらうため、食農教育をしっかりとやっていきます。道南は十勝のような大規模農業では生き残れません。知内のカキ・ニラまつり[※]のように、漁協と農協が一体となったPR活動が大事です。

藤澤 観光客の食に対する期待は高いが満足度は低い。情報発信ができないとそうなります。観光と一次産業のコラボレーションの必要性は高まるでしょう。

50年、100年先を見据えた道南の方向性

原田 新幹線開業を含め、50年後を見据えた道南振興の方向性についておうかがいします。

西尾 開港100年目の函館は北洋漁業の街で、今の状況は予想できませんでした。50年後も分かりませんが、農水産、製造業、情報技術、大学があり、陸海空のインフラがそろそろ利点を生か



コーディネーター
原田 伸一 氏
北海道新聞函館支社長

したい。津軽海峡はアジアや米国の船が月に1,000隻以上通りますが、中継地的な活用も考えられます。

林 異業種交流をもっと広め、普通の生活者の視点を取り込んで実行する組織になってほしい。10代、20代の方にも、函館、道南の未来を考えてもらう仕掛けが必要です。

藤澤 新幹線時代を迎え、観光客を呼び込むことは重要ですが、消費してもらわないと経済は良くなりません。観光は宣伝したから翌年すぐ結果が出るものではありませんので、継続が大切です。今は議論よりも行動しましょう。

*

今回のフォーラムでは、多方面の方々から貴重なご意見、ご提案をいただくことができました。フォーラム参加者、関係機関の皆様に感謝申し上げます。

ここで得た知見やアイデアを生かし、今後の道南の活性化や北海道の発展に寄与するさまざまな活動を検討して実践していきたいと思えます。

※ カキ・ニラまつり

毎年2月中旬に「知内味な合戦冬の陣カキvsニラまつり（通称『カキ・ニラまつり』）」として、知内町の特産品であるカキとニラを使った料理の試食と販売、各種アトラクションを実施している。